

立教南無
850
年



第192号

令和4年
11月4日発行
お十夜号

西光



坊主のつぶやき 仏事最新事情
「香り」の届け方問題 ～オイルの時代は来るのか～
日常に溶け込む仏教語 堪忍やで～
靈閑だより 徒然なるままに
お知らせ
お十夜法要のご案内



浄土宗西山禅林寺派
雲龍山 西光寺

住職 大塚靈閑

〒671-0101 姫路市大塩町229

Tel 079-254-0351 Fax 079-254-4142

坊主のつぶやき

仏事
最新事情

「香り」の届け方問題

オイルの時代は来るのか

花粉症の私には、ヒノキの花粉はスギと並んでこの世で最も憎きヤツですが、ヒノキの香りは木や花の中では一番好きな香りです。勝手なものです。ヒノキのエッセンシャルオイルまで持っています。

さて、今年最後の法要「お十夜」では豆ご飯を作りますが、その際に使うお櫃をこの度買い換えました。木曽のサワラ材とあります。サワラ？と思って調べてみると、ヒノキ科で、ヒバと呼ばれることもある。ヒノキはその耐久性から建材として多く利用されるが（西光寺の本堂もヒノキです）、サワラはヒノキよりは香りも弱く、専ら桶やお櫃などに使われるとのこと。確かにヒノキのように香りが強いと、豆がヒノキに負けてヒノキご飯になりそうです。その点ではサワラは心地よい塩梅です。



巻き線香の代わりに…

便利アイテムの出現です。最近中陰にお参りさせて頂くと、オイルをよく見かけます。葬儀社が四十九日の間使うものとしてオイルをセットに付けているようです。火を使わないので安心ということでしょう。微かな香りを長く漂わせておくというアイデアはなるほどです。

オイルは普段から使われている方もあろうかと思いますが、仏前にあると少々新鮮でした。線香や焼香のように目に見える形で煙がたてば、「よしよし供養しているぞ」と実感できますが、オイルは目には見えぬ微かな

な香りがゆっくり漂ってくるので「俺は目に見えるものしか信じていないぞ」という人には向きません。

オイルの歴史は古し

そもそも仏前にオイルで…と抵抗があればまずは言葉の響きから。オイルと言わず精油と言ってみましょう。一気に角が取れました。一見新しいオシャレなアイテムと思われがちな精油の歴史は非常に古く、エジプトやギリシャなどの古代文明の時代から医療や美容、宗教的な儀式などで使われています。なんと紀元前の世界です。



段ボールに入って届いたお櫃には、プチプチの代わりにヒノキのカンナクズ（削り皮）が緩衝材として使われていました。プラゴミの削減どころかゴミとして捨てられる削りクズを再利用でき、ゴミが減る。グッドアイデアです。さらにカンナクズの活用方法が書かれた紙が添えられており、「鼻に近づけて心に安らぎを」「靴箱の消臭効果」「浴槽に浮かべてヒノキ風呂に」「枕元に置いてリラックス就寝」等と書いてあります。提案されると全部素直にやってしまうではないか。残念ながらヒノキ風呂だけは期待した程でもなくイマイチでした。いずれにせよ一石何鳥にもなる優れものです。

仏教発祥の地インドにもオイル

インドにはアーユルヴェーダという五千年の歴史を持つ伝統医学があります。ヨガや瞑想、食事療法、オイルマッサージ等を通して体内のバランスを整え、心と体の健康を保ちます。こ

仏事には欠かせないお香

一方で寺院においては、お香は浄める、そして仏さまへお供えするものとして宗教儀式の中で重要な役割を果たしてきました。仏教が生まれたインドをはじめ東南アジアがお香の原料になる香木の産地でもあったことも深く関係するでしょう。



(左)ひのきのエッセンシャルオイル。(右)スリランカで買ったシナモンのオイル。AYURVEDAととりあえず書いている。シナモンは桂皮としてお香の原料としてよく使われます。

いつもお参りの際、最初に読むお経は「香偈」というお香に関するお経の一節です。また「香典」は今はお金を包みますが、本来仏前にお香をお供えするという意味です。仏事にお香はやはり欠かせないものなのです。

エッセンシャルお香は高価…

植物から抽出した天然成分100%の精油をエッセンシャルオイルというのに対し、アロマオイルは人工的な香料が添加されています。一方お香は香木を細かく刻んで抹香にしたり、粉末にしてそれを固めて線香として使います。その点ではオイルと同じ植物由来なのですが、伽羅・沈香・白檀などの香木は長い長い年月をかけて自然に生成されるので、純度100%のエッセンシャルお香は大変高価なものです。エッセンシャルオイルの比ではなく、およそ日常使用とはいえません。だからこそ、もし線香をお供えされる時には量より質で、それらを選ばれると喜ばれると思います（白檀の香りなどという紛らわしいものには要注意です）

現在では無煙無臭のものからコーヒーやバニラの香りのするものなど多種多様な香りが楽しめるようになってきています。線香もオイルも香りを楽しみ味わいながらお供えしても罰当たりにはならないでしょう。

今は何でも認め、尊重する時代。線香もオイルも共存共栄が望ましいですね。



日常に溶け込む仏教語



かんじん 堪忍やで〜

キレてないですよ

プロレスラー長州力の名言？
です。「キレル」というのは何が切れるのかという諸説あるらしい。仏教の立場から見れば「堪忍袋の緒が切れる」に一票入れておきましょうか。というのもこの「堪忍」が仏教語だからです。現在使われている堪忍の意味としては耐え忍ぶ、許すことです。ちなみに「あ、すんまへんすんまへん、堪忍やで〜」とコテコテの関西弁からも分かるように堪忍は関西で多く使われるのに対して、関東では「もう勘弁してよ〜」と勘弁の

方をよく使うらしい。なるほど。確かに堪忍のイントネーションは関西弁と相性がよさそうですね。

シャバ

そして、この堪忍という言葉とセットで紹介しなければならぬ言葉がもう一つ。それは「娑婆^{しゃば}」です。古代インドの言葉の「サハー (saha)」の音写語で娑婆、そしてその訳語として堪忍となるわけです。苦しみ耐え忍ぶ世界というわけです。つまり私たちの生きている



こんな掛け軸がありました。「堪忍長寿基」。徳川家康の名言「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。心に望みおこらば困窮したるときを思い出すべし。堪忍は無事長久の基、怒りは敵と思え。勝つことばかり知りて、負くること知らざれば害その身にいたる。おのれを責めて人をせむるな。及ばざるは過ぎたるより勝れり」からきているよう。なるほど勉強になります。



この現実世界です。刑務所から出てきた人が言うときれる「娑婆の空気はおいしい」ですが、（塀の中で）苦しみに耐えてきた人が（塀の外の）苦しみに耐える世界の空気がおいしいと言っていることになりま

もしれませんが、塀の中も外もどちらも娑婆です。残念ながら塀の外に出ても、思い通りにいかない耐え忍ぶ世界なのです。

安心してください、往けますよ

亡くなってから往く世界が今より苦しいところだとそれこそ「勘弁してよ」となります。最愛の家族が、そして親しき友が往く世界は絶対的に安らかなる良い場所ではないと困るのです。また来世での再会を期してもその再会の場所が地獄のようなところだと困るのです。行き先が分からないようにだと、往く本人も不安ですし、送る我々の方も安心できません。それこそさうかお葬式もできません。お葬式では故人の極楽往生を願うわけですが、裏を返せば、これも往って生まれるところがはっきりしているからこそ「ゆっくり休めよ。ええとこ往けよ。またな」と安心して送ることができるのです。なぜそんなことが断言できるのか。それはしっかりお経にそう書いてあるからです。お葬式は皆で故人の極楽往生を願い、信じ、確認し、見届ける場です。

信じるという」と

ここで大事なのが「信じる」ということです。あちらの世界に往って帰ってきた人はいいので、どんな様子だったかは聞くことができません。ましてや向こうから「今着いたで、わりとええとこやわ」などと電話がかかってくることもありません。そういう意味においては、大事な人が往ったところはいいところなんだと信じ切ることです。途中で道に迷いふらふらと変なところへ往ってしまったかと疑わない。浄土宗を開かれた法然上人の言葉に「信じてもお信ずべきは必得往生ひつとくおうじやうの文なり」また「ただ往生極楽のためには南無阿弥陀仏と申して疑いなく」とあります。必ず極楽に往生できるのだと案ずることなく、ましてや疑うことなく絶対の信頼をおき信じる。ただそれだけ。ですので「あなたの先祖が苦しんでいますよ」と声をかけられたら、動じることなく「いえ大丈夫です。苦しんでません」と言いましょう。

靈閑だより

徒然なるままに…

話のネタに毎年少し気にかけている「今年の漢字」。清水の舞台で清水寺の實主が揮毫される年末の風物詩のあれです。昨年はこの『西光』で「黙」だと予想しましたが、結果は「金」で拍子抜けしました。また「金」ですかと。この二十年で四回目の登場です。夏のオリンピックの年は金が出やすいのです。

今年一年を振り返りますと、引き続きのコロナ禍：しかしコロナの話題はもう皆飽き飽きしてきました。では他にというと、ロシア・ウクライナの戦争関連（値上げ、物価高、円安）、安倍元首相関連（国葬、統一教会）あたりが思い浮かびます。いやな予感があるのですが、共通しているのは皆「金」（カネ）「がらみ」です。ちなみに冬季の北京オリンピックもそういえば今年でした。まさか二年連続の「金」…

さて、コロナもそうですが、ロシアとウクライナの戦争の出口がなかなか見えません。仏教では身体、口、心で犯す悪が十種あると言います。世の中で起きている事件の原因をたどればこの十個のいずれかに当てはまります。まずは身体による悪は次の三つです。

- ・ 殺し（他のいのちを奪うこと）
- ・ 盗み（他の物を奪うこと）
- ・ 邪な不貞行為

誰がどうみても犯罪です。端的にいえば自分に与えられていないものを強制的に奪うということです。次に口による悪です。

- ・ 嘘
- ・ 口先だけのおべんちゃら
- ・ 他人を傷つける悪口
- ・ 他人を仲違いさせる二枚舌

十個の悪の内、実に四つが口による悪です。ブツダ（お釈迦さま）は言います。人は皆生まれの時に口に斧おのを持っていて、この斧は他人を傷つける斧となるだけでなく、結局は巡り巡って自分自身をも傷つける斧となってしまうということは重々心得ねばなりません。そして最後に心による悪です。

- ・ 果てしない欲
- ・ 憎しみ、怒り

・ 道理を解さず、また解そうとしない
これらは自分自身の心の中で沸き起る悪であって、直接他人を傷つけることにはなりません。これが積もり積もって実際の行為となつて出てくることを思うと、どうもこの三つが悪の根源といえます。

戦争は実にこの十個の悪をすべて犯してしまふことになりました。ブツダは言います。

戦場において百万人に勝つよりも、
唯だ一つの自己に克つこそ、
じつに最上の勝利者である

『ダンマパダ（法句経）』

一刻も早く某国の指導者〇ーチンに聞かせねばなりません。

もう一つ彼に聞かせねばならない詩があります。相田みつをさんの「わけ合えば」という詩です。

うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる
うばい合えばあらい わけ合えばやすらぎ
うばい合えばにくしみ わけ合えばよろこび
うばい合えば不満 わけ合えば感謝
うばい合えば戦争 わけ合えば平和
うばい合えば地獄 わけ合えば極楽

私達も日々心がけたいものです。

西光寺役員の去就

【退任】東ノ丁 瀧上隆史さん

東ノ丁の世話人を長年お務め頂きました瀧上隆史さんが今年いっぱいでご退任されます。20年以上にもわたり当山の様々な事業の遂行にご尽力頂きましたご意見番瀧上さんのご勇退は大変惜しいことでございます。これまでの功労に敬意を表するとともに、種々ご指導頂きましたことを厚く御礼申し上げます。長い間お世話になり誠に有難うございました。

【新任】東ノ丁 石原良和さん

瀧上さんの後任として石原良和さんに東ノ丁の世話人にご就任頂きます。何かとお世話になりますが宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

令和5年度年忌表

来年（令和5年）の年忌表は下記の通りです。土・日曜日の午前中をご希望の方は早めに日時をご予約下さい。尚、年忌法要（法事）があたりおられる方には別途ご案内致します。

1周忌	令和4年
3回忌	令和3年
7回忌	平成29年
13回忌	平成23年
17回忌	平成19年
25回忌	平成11年
33回忌	平成3年
50回忌	昭和49年

門前掲示板

十月

万思に

生かざる身の百思を知る
せめて一思に報ぜん

十一月

人が生まれたときには、
実に口の中に芥が生じている。
愚者は悪口を言つて、

その芥によって

自分を斬り割くのである

『スッタニパータ』第六五七偈

ご逝去の報

宮本丁	石原正彦さん	78歳	令和4年9月6日寂
西ノ丁	古川眞雄さん	77歳	令和4年9月6日寂
宮本丁	石原孝子さん	74歳	令和4年9月11日寂
西ノ丁	歌野渥美さん	87歳	令和4年9月15日寂
西浜	岩井明美さん	92歳	令和4年9月29日寂
神戸	石橋昭三さん	95歳	令和4年10月4日寂
西ノ丁	白矢ゆき子さん	92歳	令和4年10月24日寂
阿弥陀	井本恒武さん	91歳	令和4年10月26日寂
西ノ丁	大谷正城さん	81歳	令和4年10月26日寂

除夜の鐘・修正会

（元旦のお勤め）

12月31日（土）

午後11時40分開門（午前1時頃閉門）



十夜会

じ
ゆ
う
や
え

11/26(土)

- 13時～ お勤め
13時30分～ お説教
14時30分～ 塔婆回向
15時30分頃 終了予定

とうばえこう
＜塔婆回向について＞

塔婆回向では西国三十三ヶ所の御詠歌をあげながら、ご先祖の供養をいたします。ご希望の方は当日世話人席にてお申込み下さい。1霊300円です。戒名(〇〇家先祖代々、俗名でも構いません)と施主名(お申込みの方のお名前)をメモしてお持ち頂くとスムーズです。

【説教師】

永観堂禅林寺第90世法主

なかにし げんれい

中西 玄禮 猯下

本山永観堂に8年間ご法主として在任され、4年前にご自坊の網干の大覚寺にお戻りになりました。西光寺に定例法要のお説教でお越し頂くのは実に14年ぶりのことです。またとない機会ですので、是非ともお誘い合わせの上、お参り下さい。お十夜名物の豆ご飯をご用意してお待ちしております。